

## 科学技術系ミュージアムにおけるミュージアム・ショップと グッズに関する調査研究

日本ミュージアム・マネジメント学会 山下 治子

本研究は、科学や技術の理解増進にとって重要な役割を担う科学系ミュージアムにおいて販売されるミュージアムグッズについて調査研究を行った。すなわち、ミュージアムグッズは来館者がミュージアムに来た記念に求めていくとともに、その後の科学技術に興味関心をもつ媒体となるからである。

研究は以下のように進めた。

- (1) 国内の科学技術系ミュージアムにおけるミュージアム・ショップとミュージアム運営者の実態調査
- (2) 国内の科学技術系ミュージアムのミュージアム・ショップが扱っているグッズの実態調査
- (3) 海外の科学技術系ミュージアムのショップやグッズについての実態調査
- (4) 科学技術系ミュージアムのショップおよびグッズのあり方についての基本的考え方の調査研究

まず、調査では国内のミュージアムショップの現状の把握、それらのミュージアムショップで扱っているグッズの実態を調査し、それらグッズの分類を試みた。検討の結果、分類にあたっては、従来の「科学玩具」、「図書」、「実験器具」といった形態や用途別の分類では、ミュージアムが得意とし、またその目的や手段でもある「感動」「驚き」、「発見」といった内容を引き出すことができないとなり、新たに「気持ち分類」という感情の動きを表現する項目に加えることにした。また、「物理」「化学」「天文」といった科学分野の分類に加え、それらにどのような効果が考えられるのか、グッズとしての工夫された点、改善すべき点などを専門的見地から考察した。

そのようにして国内のミュージアムショップの実態調査を進めていくなかで明らかになったのは、国内で販売されるミュージアムグッズは種類も洗練されたグッズも少なく、ミュージアムショップも充実しているところが少ないということである。

そこで、当初は科学技術系ミュージアムショップ担当者等にアンケート調査をする計画をしていたが、これについても再検討し、取りやめた。かわって、ロンドン科学館、バンクーバーサイエンスセンターのミュージアムグッズを取り寄せるとともに、サンフランシス

コのエクスプロラトリウム、サンフランシスコ科学アカデミー、韓国に新しくできた果川国立科学館に研究員が行き、調査した。海外の科学系ミュージアムグッズ、とくに英国、米国の充実ぶりは日本と格段の差がある。実験キットの豊富さ、ユーモアのある科学図書、インテリアとしての科学系グッズなど、エンタテインメント性が高く、科学技術の面白さがミュージアムおよびミュージアムグッズとして発信されている。社会の求める科学技術への関心と、ミュージアムおよびミュージアムグッズへの意識や実態の差を認識させられることになった。

しかし、一方で日本のミュージアムグッズの特性も浮き彫りになった。日本の科学おもちゃとしてロングセラーの「地球ゴマ」に代表されるように、ゴマについては日本の多くのミュージアムショップで取扱い、またその種類も多いことがわかった。ゴマ遊びは日本の伝統的なものであり、その種類も豊富である。日本の科学技術の特徴でもある小型化、繊細性部など、技術志向のグッズに重心が置かれていることがわかった。

また、理科教材とミュージアムグッズの違いについても検討した。ミュージアムショップでは、実験器具など理科教材として使われるものも販売しているが、両者の違いは何か。理科教材会社へのヒアリングなどから、「教材」には教育の場ゆえの正確性、多くの児童生徒が使うゆえの耐久性、繰り返し使うゆえの耐用性などが求められていることがわかった。「教育の目標」をいかに達成するか重点が置かれるのである。

一方のミュージアムグッズは、社会教育の場として教育性はあるものの、教育目標はない。ゆえに、ミュージアムグッズにはミュージアムの展示やプログラムから発せられた「興味関心」や「驚き」を持続させ、さらに深めさせる媒介の役割が求められるのである。そこで、科学技術の理解増進へといざなうための、教材にはないデザイン性やキャッチコピーなどが大切になってくるのである。理科教材をミュージアムグッズにするためには、その点の改善・工夫が必要になってくる。

なお、資料として購入したミュージアムグッズはデータベース化している。報告書では、科学技術系のミュージアムグッズにはどのようなものがあるか、それがどのような興味関心を引き出し、科学技術の理解増進につながるのかをビジュアルにわかるようミュージアムグッズがカラーで掲載されるようにしている。(別紙は、それ以前のデザイン案である。)

(文責・山下治子)